

『交流活動を通して学校や地域においてたくましく生きる児童の育成』

あま市立甚目寺西小学校

1 目的

校訓「明るく やりぬく たくましい子」のもと、様々な人との温かいふれあいを大切にした学習の場を積み重ねていくことにより、互いを思いやることの大切さを学ばせるとともに、規範意識の高揚も図っていききたい。

2 内容

(1) 多様な交流（児童・地域・国際）の場を通して温かい人間関係づくり

ア ペア学年活動（異学年交流活動）

本校でのペア学年活動は3年目を迎えました。今年度も1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生が「ペア学年」となり、清掃活動や遊び、読み聞かせなど、学校生活の様々な場面でかかわる中で、人間関係を築いたり、上級生としての自覚を促したりする活動に力を注ぎました。

また、通学班内での人間関係の希薄さが原因と思われるトラブルで指導をする場面が見られることから、異学年で編成される通学班で遊ぶ「なごみレク」を実施しました。

イ にっこクリーンキャンペーン

毎年6月には、保護者や地域の方々とともに、学校周辺の道路の清掃に取り組んでいます。保護者の方々に加え、地元の老人会の皆さん、児童が配付した「協力をお願い」を読んだ地域の方も参加してくださり、児童の安全を見守りながら清掃活動を助けていただきました。



ー通学団なごみレクー

ウ スリーハート運動

本校では、毎年、規範意識の高揚と人権モラル向上をめざした「スリーハート運動」に取り組んでいます。児童と保護者、そして地域の方々から標語作品を募集し、それぞれの優秀作品を1枚のポスターにまとめ、高学年の児童が近隣の公共施設や商業施設等へ出向き、掲示してもらいました。活動の趣旨に賛同し、新たに掲示を引き受けてくださる事業所もありました。

エ マロニー小学校との交流

アメリカ・マロニー小学校との交流活動を始めて5年。互いの国の文化を紹介し合えるようなメッセージカードやオーナメント等、工夫をこらした作品を交換したり、テレビ電話で直接会話したりして交流を図っています。

本年度も、全校児童がマロニー小との交流に参加できるように、日本の小学校の様子を動画にまとめて、マロニー小に贈りました。各学年で分担し、校舎や教室をはじめ、授業や給食、そして掃除の様子を日本語や英語で解説

したものをDVDにまとめました。この動画は、マロニー小で上映され、日本の学校の様子を知ることができただけでなく、日本語の勉強の教材として役に立ったと好評でした。今後も、双方にとって有意義な活動になるように工夫していきたいと思います。

(2) 挑戦する土台づくり

ア JICA国際協力出前講座

今年度は、岩田智行先生を講師にお招きし、「人権学習会」を開催しました。

青年海外協力隊として赴任した国「ラオス」での体験をもとに、「違いを認め合える素晴らしさ」をテーマに話を聴くことができました。

講師と児童との対話を通して「相手に興味をもつことが理解への第一歩」、「日本人から見て当たり前でないことも、ラオスの人にとっては当たり前」ということを学ぶことができました。



－ 岩田智行さんの講演 －

イ 外部講師の招聘

外部から講師を招き、温かいふれあいを大切にした学習活動を進めるとともに、私たち教師の力量向上にもつなげています。

- * 地元老人クラブ（伝承遊び：1年） * 佐藤醸造（醤油造り：3年）
- * ドリームマップ普及協会（将来の夢：4年） * 甚目寺小唄指導（全校）
- * 中日新聞地元営業所（新聞づくり：5年） * 租税教室（6年）
- * 福祉実践教室（4年、5年、6年） * 歯のバトンタッチ運動（全校）
- * オリンピックパラリンピック教育出前講義（5年、6年）
- * ケータイ・スマホ安全教室（防犯教育：5年、6年）

ウ 現職教育の充実

合唱指導やQ U検査の分析について、専門講師を招いて研修を深め、教師の力量向上を図りました。

3 評価

出会いとふれあいを大切にした活動を計画的に積み重ねたことで、よりよい生き方や温かい人間関係を求める気持ちが高まり、自他を大切にする児童が着実に育ってきています。児童全員が、日々登校できていることから、学校が安心して自分を成長させることができる場ととらえているといえます。

4 課題

児童は様々な活動を通して、人とかかわることの楽しさやよさなど、体験的に多くのことに気付いたり学んだりすることができました。今後も、身につけた力を、学校・家庭・地域で発揮できるように、学ぶ場を設定し、継続的に取り組ませていきたいと考えています。